



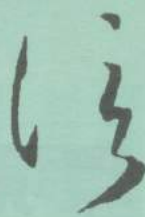
Kyoto Seika University was founded in 1968. It started out with high ideals that broke the mold of old Japanese universities. Kyoto Seika University is the place where teachers, students and all others are respected as human beings, and where the spirit of freedom and autonomy prevail. Although it is a small university, it is known for producing graduates who are unique and independent. From now on, in order to improve and develop this university, we



will continue to believe in these ideals. Kyoto Seika University consists of two faculties: Humanities and Art. The Faculty of Humanities uses educational philosophy of experiential, intercultural, and interdisciplinary approach to study broadly various peoples and cultures. The main purpose is to gain a deep understanding of living people's societies and cultures as a whole. The faculty of Art not only teaches skills and techniques but also cultivates insight into



Humanity. While considering the basic question of what is Art to Humans, we search for true art expression. Kino Press is a newsletter published by Kyoto Seika University and distributed to students, faculty, administrators, graduates and other members of the university community. This publication is intended to keep readers informed of all aspects of K.S.U.'s development, including on campus event, personnel changes and student news.



**KINO PRESS**  
KYOTO SEIKA UNIVERSITY  
**NO.29**

木野通信 第29号 1998年7月15日発行  
京都精華大学情報館文化情報課  
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137  
TEL 075-702-5343

## 京都精華大学の幸運

—30周年をむかえて—

学長

中尾ハジメ NAKAO Hajime

私たちの大学が、美術科と英語英文科からなるほんとうに小さな短期大学としてスタートしてから、今年で30年になります。設立準備にかかわった人々は、当時どんな未来図を思い描いていたでしょうか。

京都精華大学は、理念的であれ具体的であれ、いまだに夢を持ちつづけています。経験をつんだものには、それは鍛えられた夢であり、若い人々には実現されようとする自分の可能性であるかもしれません。教育の場であれば本来それは当然のことだともいえますが、夢をもつことを手ばなさずに働きつづけ、学びつづけることができるこのような場は、今日どこにでもあるわけではない。私たちはほんとうに幸運だった。それが私の実感です。

この幸運の依ってきたものが何であるのか。文字どおり体当たりで、すべてをかけてこの大学を創りだし支えようとした人々の直接的な協働性を、私は躊躇なく指しめしたいと思います。岡本清一初代学長のみならず草創期の人々すべてが、さまざまな夢が沸きだすような可能性をその手につかみとった瞬間から、骨身を惜しむことなく仕事に打ちこんでいった姿が想像されます。確かなのは、その人々の気風が受継かれ、この大学で働く私たちのなかに、いまでも残っていることです。他ならぬ自分たちの直接的な働きによって学生たちとともに学園を実現するという矜持だったといってもいいでしょう。

たしかに学生数は増え、組織は大きくなりましたが、この協働性はまだ生きつづけています。この幸運のもうひとつの源泉を、これまた躊躇なくあげることが出来ます。用務の仕事、警備の仕事、食堂の仕事、情報館の仕事をする

人々から、学外実習先の工房の人々、関係企業の人々まで、大学が若者の

成長の場であることを感じとり、例外的ともいふべき好意を

もって働いていただいていることに、感謝します。そのこと

がなければ、「人間形成」という根幹の理念が、なにより

も先に形骸化してしまったにちがひありません。

京都精華大学は、この木野の静寂な風景のなかに

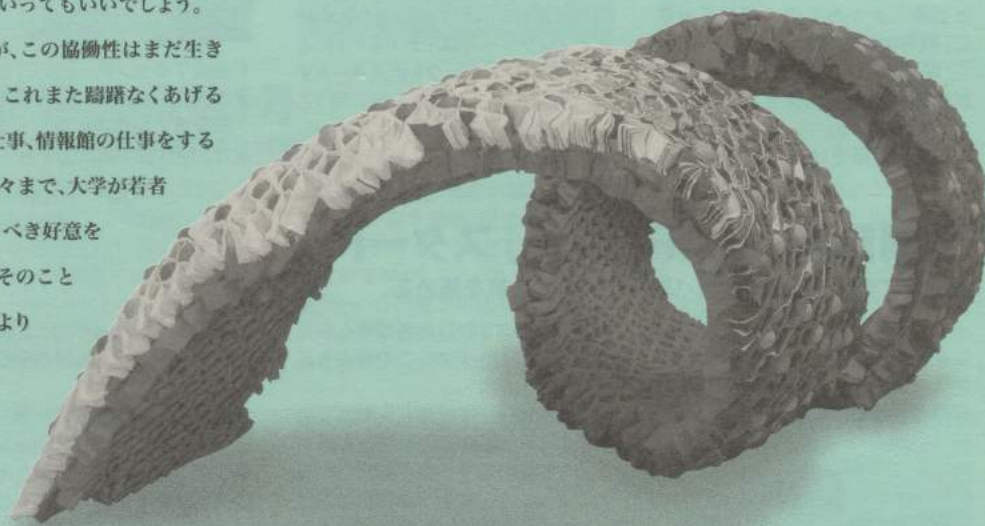
忽然と出現し、ときとして騒々しいまでの活力

を年々高めながら今日までやってきました。

最後に、この大学を寛容に支持して下さった

近隣の人々にまで私たちの感謝を広げた

と思います。



# 環境マネジメント体制確立へ

大学としての実践的な環境問題への取り組みをスタート。  
大学としては日本で初めての「ISO14001」認証取得を目指す。

環境問題は、人類の存続に関わる極めて重要な取り組み課題であり、地球規模で大きな関心が寄せられている。京都精華大学は、本学の環境問題への取り組みとして、環境マネジメントシステムに関する国際規格である「ISO14001」の取得をめざすことを決定した。

企業などが、自分たちの活動や製品、サービスが地球環境に与える負荷を減らすために、環境対策の目標を定め、実行し、結果をチェックする仕組みを「環境マネジメントシステム」と呼ぶが、それが継続的に改善されるための規格がISO14001である。認証機関による審査を経た結果あてられる。またISOは一度取得

しても3年ごとの更新審査が必要で、これによってその組織の環境マネジメントシステムの有効性と継続性が再評価される。ISO14001に関する方針、目的、具体案等はすべて公開することが原則となっている。環境配慮へ自主的・積極的に取り組んでいることを示す有効な指標であるため、1996年9月に発効されて以来、製造業を中心に取得する企業が増えている。ISO14001の認証取得の有無を発注要件として検討している地方公共団体も出ているほど、急速に社会的注目を集めている。現在のところ取得した大学はまだなく、もし取得すれば日本の大学としては初めての事例となる。今後、本学においても、環境マネジメント体制を確立していくなかで、これまであまり意識的に取組まれていなかったことから、個々人の実践的な課題となっていこう。例えば、空調や電灯、ガスのつけっぱなしなどエネルギー資源のムダをなくすことや、ゴミの分別をすることに



## 新しい知を切り開く「創造研究所」を設立

いよいよ研究所が発足。新しい知的生産がはじまる。

かねてから検討が進められてきた研究所が、この4月から正式に発足した。名称は「京都精華大学創造研究所」(Kyoto Seika University Research Institute of Culture and Art)。文化と芸術にかかわる広い領域を対象に、既存の枠組みにとらわれないことと、学術研究を深めることとなる。初代所長は橋爪紳也先生(人文学部)がつとめている。創造研究所では、共同研究をその

方法として採用しているが、単に成果を持ち寄るだけの旧来型の共同研究ではなく、研究ディレクターが議論の核となり、新たな知的生産を為し得る「共同研究」のスタイルを追求する。本年度は、所長を含める5人の研究ディレクターのコーディネートにより、5つのプロジェクトがスタートする。2000年にその成果を世に問うことで、「創造研究所」の名にふさわしい、新しい「知」と新しい「研究領域」



を創造するセンターとして、広く認知されることを目標としている。研究会/会議用のスペースと事務室は、明窓館1階に置かれている。

## 公開講座『GARDEN』スタート

社会人に向けた公開講座シリーズが開講。人気を集める。

公開講座といえば、本学には開学以来30年続いている「アセンブリーアワー講演会」があるが、生涯学習への社会的要求の高さを受けて、あ

らたに「GARDEN」と名づけられた公開講座シリーズが、この春からスタートした。「GARDEN」は社会人も参加しやすいように、開講時間を平日夜間や土曜日に設定している。有料で定員制であるのも、本学では初の試み。1998年度前期は「ノンフィクション講座」「写真講座」「身体表現講座」「宗教論講座」「環境論講座」の5講座を開講。吉岡忍氏ら人気作家をそろえたノンフィクション講座がすぐに定

員を埋めたのをはじめ、どれも多くの受講者を迎え、好評のうちに終了した。後期も、APF通信社代表・山路徹氏「ビデオ・ジャーナリスト講座」や歌人でこの春本学を退職された岡井隆氏「短歌講座」などが予定されている。資料を希望される方は、文化情報課GARDEN事務局までお申し込み下さい。



よって(カン、ビン、紙類、その他)資源の再利用化を図ること、さらには薬品類による水質汚染を防止することなどである。教職員や学生ひとりひとりが環境への認識を持ち、それぞれの領域において具体的に改善のための実践をしなければ、もちろんこの取組みは成立しない。ISO14001の認証を取得するためには、本学がいかなる姿勢で環境問題に取り組んでいくのかを「環境方針」として、学外に示す必要がある。人文学部発足以来、「環境」をひとつの柱にすえてきた本学が、このように実践的に環境問題に取り組む姿勢を示すことは、社会的に意味あることだといえよう。

## 父母懇談会のお知らせ

一昨年から始まった父母懇談会も、今年で3回目を迎えます。昨年は、名古屋、東京、京都の3会場で開催され、あわせて400名の多数にのぼる参加をいただきました。参加者のみなさんからは、大学を知る貴重な機会として、好評をいただいています。内容は、大学の近況報告と学生諸君の就学状況報告。担当教職員との個別相談の時間も用意しています。本年度の開催日時・場所は下記の通りです。

- 福岡 7月18日(土)13:00～東京第一ホテル福岡
- 広島 7月19日(日)13:00～エソール広島
- 京都 10月24日(土)13:00～京都精華大学

多数のみなさんの参加をお待ちしています。この件についてのお問合せは、企画室(075-702-5201)までお願いいたします。

## ふたつの国際マンガ展を開催

京都国際マンガ展と日韓ワールドマンガ展。海外からも参加する国際的なマンガ展が本学主催で行われた。

1997年12月に京都精華大学が主催するふたつの国際マンガ展が開催された。ひとつは京都高島屋7階グランドホールで12月1日から12日まで催された「第3回京都国際マンガ展1997—地球温暖化防止会議を迎えて」。国際マンガ展は本学と京都国際マンガ会議の主催によるもので、すでに3回目を迎える。副題にもあるように、97年はおりしも地球温暖

化防止京都会議(COP3)が開かれるとあって、「地球温暖化は防止できる!」をテーマに世界のマンガ家から作品を募った。その中の入選作、世界24カ国・約200点が展示された。COP3会期中にその地で行われた展覧会とあって、大きな反響を呼んだ。会場で展示されなかった作品が、駅電車内にも展示された。また、12月2日～12月14日には

京都精華大学ギャラリー・フロールで「日韓ワールドマンガ展」を開催。こちらは、日韓両国で開催された「国際マンガ賞」の受賞作品に加え、韓国からは世宗大学映像漫画科などマンガ、アニメ、イラストの学科を設ける10前後の大学、専門学校の学生たちの作品、日本からも京都精華大学をはじめとする、大学、短大、専門学校でマンガを学ぶ学生の作品が展示された。日韓の学生達が制作したアニ



メーション作品の上映会もあった。両者ともに、マンガというジャンルの世界的広がり、マンガの持つ可能性の大きさを感じさせる展覧会となった。

## 青島海洋大学と友好協定を締結

中国にあたらに友好大学。京都精華大学のフィールドがまたひとつ拡大した。

本学はすでにアメリカ、オーストラリア、タイに協定大学をもち、人文学部の長期フィールドワークあるいは美術学部・人文学部の交換留学で学生の相互交流に実績を積んできました。しかし、一衣帯水の中国に友好大学を持たないのを残念に思っていました。この度、予てより折衝していた中国山東省の青島海洋大学と本学との間で相互協力についての合意を得



て、6月6日、本学にて相互協力に関する一般協定の調印式を行いました。青島海洋大学から李耀臻副学長、徐天真学長代理、王文賢日本語

学部副学部長の3名の先生方をお迎えし、両大学の関係者が見守る中、中尾ハジメ学長と李耀臻副学長が協定書に署名しました。今後、さらに学生の相互交流を推進するための具体案を検討中です。青島海洋大学は中国国家教育委員会が主管する重点大学であり、10学院(カレッジ)・25学部を持ち、7,000名の学生が学ぶ総合大学で、その中でも海洋学に関しては中国随一と評

価されています。海洋大学のある青島市は山東半島の付け根にあり、黄海に面し、「東方のスイス」「黄海の真珠」と称されるとおり、都市景観の美しさには眼を見張ります。関西国際空港から2時間半、日本から最も近い中国・青島で本学の学生が勉学する姿がすでに目に浮かびます。(国際交流課 花谷薫)

## カンヌ映画祭受賞の映画監督が相次ぎ来学

世界的に注目を集めるキアロスタミ氏と仙頭直美氏。ふたりの映画監督が本学で講演。

昨年のカンヌ国際映画祭で、今村昌平とともにバルムドール(グランプリに相当)を受賞したアッバス・キアロスタミ氏と、カメラドール(新人賞)受賞者である仙頭(旧姓・河瀬)直美氏という、現在、世界で最も注目されるふたりの映画監督が、相次いで京都精華大学に来学した。キアロスタミ氏は「友達のうちはどこ?」以来、こどもや素人を多用する独特のキャストと、ヒューマニ

スティックな視点で知られるイランの映画監督。情報館オープニングイベントのゲストとして昨年11月8日本学を訪れた。カンヌ受賞後の初来日であることに加えて、インタビューが大島渚氏だということ、500人の聴衆が黎明館L101教室に集まった。大島氏のたくみな司会が、キアロスタミ氏のあたたかな人柄をひきだし、なごやかな雰囲気の中にキアロスタミ氏の映画手法が語られた。

イベント終了後には学内を散策し、多忙な中での短い滞在ながら、京都の秋の風景を楽しまれた様子だった。仙頭直美氏の講演会は、アセンブリーアワー講演会の一環として、4月23日、黎明館L101教室で300人の聴衆を集めて行われた。「映像がうつし出すもの～仙頭直美・学生との対話～」と題して、学生の質問に答える形で進行された。質問は映画ばかりでなく、表現一般や生き方の問題にまで広がり、仙頭氏の明快で熱意あふれる語り口に、参加者は大きな刺激を受けた。

## 好調な売れ行き『木野評論』市販第1号

本学編集発行の『木野評論』が書店に並んだ。斬新な内容で、売れ行きも好調。

『木野評論』は本学が編集発行する評論誌。開学以来、年1回のペースで刊行し、大学図書館や本学関係者に無料で配布してきた。昨年、情報館に出版部門が設けられたことを契機に、より広範な読者を獲得し、外部の視点を有する本格的な評論誌として再生させるため、全国の書店で市販されることとなった。はじめての市販となった第29号の特集は「流行りの文化超研究」。

鈴木隆之先生(美術学部)が編集長をつとめ、吉本隆明、宮台真司、松岡正剛、ダムタイプらをはじめとする豪華執筆陣が、メディア、思想、アート、性の各領域での流行を分析している。大学の出版物としては類例を見ないとして、新聞各紙でも紹介され

る斬新な内容となった。売れ行きも好調で、発売3ヶ月の時点で、3500部は固いとみられている。全国有名書店で購入できる(発売元:青幻舎。本体価格1200円。本学では取り扱っていない)。

## 1998年度ギャラリー情報

昨年からオープンした「ギャラリーフロール」。開館時間は10:30～18:30(最終日のみ17:00まで)。会期中は無休。

- 7/14(Tue)～7/26(Sun) 情報館企画展(1) 核の迷宮～反核の声は無力か～ 主催:情報館
- 9/22(Tue)～10/3(Sat) 陶芸教員展(仮題) 主催:陶芸分野
- 10/5(Mon)～10/11(Sun) 関西4大学合同建築展(京都精華大学 大阪芸術大学 京都造形芸術大学 京都芸術短期大学) 主催:関西4大学

- 10/18(Sun)～11/8(Sun) 京都精華大学創立30周年記念 棟方志功肉筆画展～その宗教的な美～ 主催:情報館
- 11/15(Sun)～11/29(Sun) 情報館企画展(2) 1999年とマヤ文明～ペトログリフは古代からのメッセージ～ 主催:情報館
- 12/1(Tue)～12/13(Sun) 建築教員展(仮題) 主催:建築分野

- 12/15(Tue)～12/20(Sun) 留学生展覧会(仮題) 主催:留学生会
- 1/12(Tue)～1/17(Sun) はやり・buzzwords:情報メディアによるインスタレーション 主催:シャルル・クリストフ
- 1/19(Tue)～1/24(Sun) (予定) 美術研究科修了展(仮題) 主催:美術研究科

## 創立30周年を迎える 京都精華大学

京都の片隅に誕生した小さな短期大学が、芸術と文化の総合大学として30年目を迎えた。京都精華大学30年の歩みと記念イベント情報をお知らせする。30周年は京都精華大学の新しい歴史への出発でもある。

## セイカ30年の歩みと未来の可能性

### 1968~1978 誕生

1968年、京都精華短期大学は誕生した。4月、国立京都国際会館での入学式に集まった初年度の入学者数203名。開学当初の教職員数は34名で、施設は本館と一号館、二号館、旧食堂の4つの建物しかない小さな短期大学だった。しかし、精華の教育理念は、それまでにない、全く新しい実験的で理想的なものだった。当時の募集要項には「自由自治・国際主義・人間形成・凝集教育」といった言葉が謳われている。これらの理念は、すべて既成の大学のあり方への反省にもとづいて生まれた。

さまざまな困難を抱えながらも、高い理想を掲げた小さな大学の歴史がはじまった。少しずつではあるが、着実に、教職員や施設の拡充など教育環境を整備していくとともに、理念も制度化されていった。

### 1979~1988 発展

開学から10年経った79年には、美術学部が4年制になった。「京都精華短期大学」は「京都精華大学」となる。「京都の伝統工芸講座」や「学外実習」などの特色あるプログラムもスタート。85年には将来構想委員会が発足し、さまざまな教育環境の充実・整備に関する計画が始動しはじめる。美術学部は定員を増やし、版画、陶芸、建築の3分野も増設された。美術学部が現在の2学科9分野になったのは87年。春秋館、流溪館、風光館などの施設も整備された。



第1回入学式

### 1989~1998 飛躍

89年、英語英文科を人文学部に改組し、全学が4年制化された。関西私大での初の大学院美術研究科につづいて、人文学研究科も開設。海外にも友好大学が増え、人文学部の海外フィールドワークをはじめとする国内外の大学との各種交換プログラムが開始される。教育研究機関としてのますますの充実をはかられた。第2期施設工事も完了し、体育館、クラブボックス、新食堂、グラウンド、そして情報館が完成した。短大としての出発から30年目を迎えて、他大学に類例を見ない教育実践は、「ユニークな大学」という評価を定着させるまでになっている。

### そして未来へ

21世紀を目前に控え、社会は激しく流動化している。京都精華大学は新しい時代の要請に応えるため、新たな飛躍への準備を進めている。30周年はひとつの到達点であるとともに、また次なる歴史への出発である。

- 1966 京都精華学園理事会において短期大学設立の計画が作成される
- 1968 京都精華短期大学創設英語英文科(英米文学コース・セクレタリーコース・貿易英語コース・ガイドコース)、美術科(絵画コース・デザインコース)の2学科でスタートアセンブリー・アワー始まる
- 1969 美術科に染織コース増設「木野通信」創刊号発行
- 1970 「木野評論」創刊号発行
- 1972 英語英文科に国際文化コース新設
- 1973 美術科に立体造形コースならびにデザインコースにマンガクラスを設置
- 1975 伊谷記念朽木学舎オープン
- 1979 京都精華大学美術学部開設短期大学を短期大学部に名称変更
- 1980 美術学部生が、地元京都の伝統産業の現場で学ぶ「学外実習」はじまる
- 1982 京都精華大学短期大学部美術科廃止
- 1985 丹後学舎開設
- 1987 美術学部造形学科に版画、陶芸を、デザイン学科にULD(建築)分野を増設
- 1989 京都精華大学人文学部開設叡山電鉄に京都精華大前駅設置
- 1991 大学院美術研究科開設短期大学部を廃止
- 1993 大学院人文学研究科開設
- 1994 京都精華大学の経営が、学校法人京都精華学園から、学校法人木野学園に移管される
- 1997 情報館オープン
- 1998 創立30周年を迎える



開学当時の本館前



木野祭「飯袋行列」(1970年度大学案内より)



授業風景「デザイン実習」(1971年度大学案内より)



1978年5号館完成



人文学部開設記念洋上セミナー



1997年情報館オープン

## この秋セイカでは30周年を祝うイベントが目白押し

### 精華人の集い

京都精華大学 黎明館前広場  
10月10日(祝)  
11:30am 和太鼓「祭衆」  
0:00pm 式典  
0:45pm ゴスペルコンサート

セイカの30周年を盛大に祝うメイン・イベント。3千人を目標として、すべてのセイカ関係者に参加を呼びかけている。卒業生と在学学生、そして教職員が一同に集まり、ともに交流をもち親睦を深める。それぞれの時代のセイカを振り返り懐かしみ、現在の、そしてこれからのセイカを語る場となる。

卒業生による和太鼓やゴスペルのコンサートも催す。

その他、空にそれぞれのメッセージを込めた風船を飛ばすイベントや、30周年記念ラベル付きの日本酒を限定500本で発売するなど、趣向をこらした企画を準備している。

### プーラン・デヴィ講演会

京都精華大学黎明館L101号教室  
8月1日(土)1:30pm~<予定>

日本でも自伝「女盗賊プーラン」がベストセラーとなり、注目を集めたデヴィ氏を迎えた講演会。「盗賊の女王」と呼ばれ民衆から英雄視された氏は、投降し11年間の獄中生活を送った後、国会議員となった。彼女の人生を通じて自由や人権といった問題を問い直してみる。映画「女盗賊プーラン」も同日上映。



「三女人菩薩(修復後)」棟方志功作 京都精華大学蔵

### 棟方志功肉筆画展

京都精華大学ギャラリーフーロール  
10月18日(日)~11月8日(日)

一般には版画家として広く知られている棟方志功の作品の中から、あえて自筆画に焦点を絞り、その宗教性に光をあてる。

棟方志功が大戦末期に疎開した富山県福光町の光徳寺所蔵の「無尽蔵コレクション」を中心として、本学既蔵の壁画にあわせて、肉筆画数十点を展示する。

【記念シンポジウム】  
京都精華大学 明窓館M104 アートホール  
11月2日(月) 2:00pm~4:00pm  
高坂制立氏(光徳寺住職)、笠原芳光氏(木野学園理事長)、中原佑介氏(本学教員)

### ノーム・チョムスキー講演会

京都精華大学 黎明館L101号教室  
11月14日(土) 4:30pm~

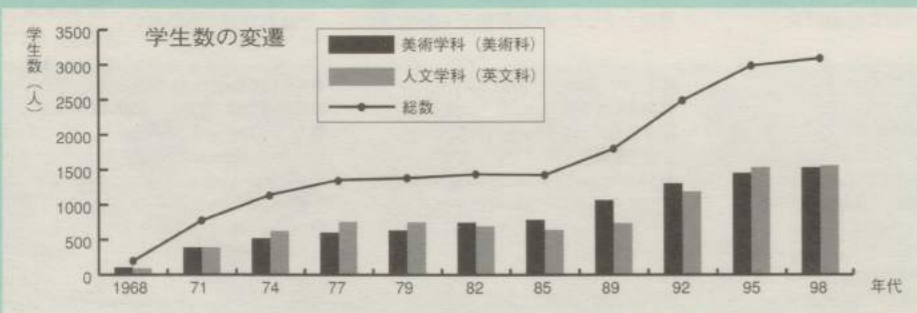
チョムスキー氏は、1950年代後半に発表した『変形生成文法理論』により知られる、言語学界の権威。現在は思想家としても世界的に活躍している氏が、未来を建設するための大学の役割について語る。

## 10月4日~9日のイベントも要チェック!

『突破者』の著者宮崎学と学生との対談、寺山修司とともに活動していたこともある昭和精吾のパフォーマンス、在学生によるコンサートなど、多彩なイベントが予定されている。会場はいずれも

明窓館M104アートホールにおいて4:30pmから。期間中、卒業生や留学生による、モンゴル他数カ国の本場料理が味わえるエスニック屋台も出る。

- 10月4日(日) チンドンパレード(河原町四条~三条)
- 10月5日(月) モンゴルのホーミー 馬頭琴と踊り
- 10月6日(火) ノムラ・アヤによるパントマイム(予定)
- 10月7日(水) 宮崎学講演会
- 10月8日(木) ジャズコンサート
- 10月9日(金) 昭和精吾パフォーマンス



# 映像作家として活躍する 前田真二郎さん

気鋭のアーティストとして注目を集めるVCD専攻卒業生。

岐阜県にあるIAMAS (International Academy of Media Arts and Sciencesの略称)は、県立の専修学校だが、大学院レベルのマルチメディア教育を行う実験的な教育機関として知られている。

そのIAMASで専任講師として、映像関係の実習や講義、それからCGや実写などの映像表現をテーマにするゼミを担当しているのが、VCD専攻卒業生の前田真二郎さん(88年度入学)。

前田さんの活動は多岐にわたる。昨年はIAMASの教官と東京でイベントを行った。50の椅子に座った観客の肩に赤外線センサーをつけ、50センサーリングのインタラクションにより映像と掛け合いをするといった実験的な作品。

今年の4月には愛知芸術文化センターの依頼で「王様の子供」という映画を制作した。ノンリニア編集による作品で、出演者、音響制作を除いては、大学時代からの映像作品同様、限りなく個人的に作られている。



「王様の子供」より



京都精華大学在学中はVCD専攻の高島、坪内両先生のAクラスに所属した。クラスの雰囲気がとてもよかったことが印象に残っている。同じクラスのひとにビデオカメラを借りたことや、昔のAVセンターにMSXパソコンがあり、それがビデオエフェクターに使えたことなどが、映像作品をつくるきっかけにもなった。

前田さんは、他大学出身者の大学生活の話や「自分は贅沢な時間を過ごしていたのだな」と感じるという。京都の風土もふくめ、考える時間がたくさんあったからだ。自分の担当する生徒にもゆっくり考える時間を与えたいと思っている。

コンピュータを使用する表現が、ピックアップ指向になっていく現在の状況こそ、個人表現の体力が試されているのだと、次世代の映像を模索している。

演劇サークルである劇的集団「忘却曲線」は、結成6年目になる。現在部員数は48名の大所帯。日常的には週3回の活動日に、発声練習と体作りを行う。夕間迫る頃、流溪館下から発声練習の音が響いてくるのは、おなじみの風景となっている。

オリジナル脚本を中心に、年2回の学内公演を行っている。パートは必ずしも固定しておらず、脚本・演出も公演によってかわる。作品の方向性を固定せず、広々さまざまなスタイルに取組んでいる。

毎回、舞台美術が凝っていることが話題になるが、4月末の公演「アルヴァレスの隕石」では、天ヶ池に高さ8メートルを超えるセットを組んだ。通常の倍近い4ヶ月の準備期間をかけた。

## 学生活動紹介……劇的集団「忘却曲線」

けあって、突如出現した巨大ドキュメントは、学内の圧倒的注目を集めた。この野外公演は、雨にたたられて1日しか上演できなかったにもかかわらず、200人近くを動員した。

サークルとして取組むのは、年2回の学内公演だけでなく、個人として、有志公演や他の団体の活動に参加する者も多い。こうした活動から、学外からの注目も高まっている。今後、いっそう学外からの観客を増やすことが、当面の目標だ。



洋画分野において、僕は表現と人の生きざま、コミュニケーションなどの関係を、制作を通して、様々な現実、人に対して向き合う行為の重要性を感じている。大学とは知識を学ぶのみではない、多くの人々がひしめき合うこの状況に対して、向き合っていかなければ何も得るものはない。モノカルチャー「単一文化」だとか、ステレオタイプ「定型型」と僕は考えてはいない。

表現者が一番近くにいる人間や物に向き合わなければ、美術が何の意味を持つと言うのだろうか？洋画には資料室と言う部屋があり、学生が作ったもので、学生が管理運営を行っている。ここには自分たちで選んだ本などがあり、週に何度が学生が集まりお茶を飲みながら雑談、制作

## 柏原えつとむゼミ……ゼミ紹介

作についての話し合いや展示会の企画などを行っている。僕はこれらいろいろな人のつながりの中、僕自身のやりたい事が何か、3回生になりようやく見え始めてきた、これから作家活動を目指すに現在の状況では、本来僕らがすべきでない仕事も含まれている。現代社会に対しての個人の不満や問題意識に対し僕は美術でしか出来ない仕事があると思う。

今時、作家志望なんて洋画クラスでは、流行らない。美術に自分に関わるのは悪い癖のようで、只、その不可解な癖が、不合理的な人間の本質的なものに思えてならない。卒業後は海外の学校に興味があるので、そろそろ語学でも始めようかと考えている。(洋画3年 柏原 良治)

# 1998年度 大学人事体制

京都精華大学の1998年度の役職者は以下の通りとなっている。

- 学長 中尾ハジメ  
 教学担当学長補佐 松谷昌順  
 学生担当学長補佐 中平佳男  
 美術研究科長 吉富康夫  
 人文学研究科長 堤邦彦  
 美術学部長 小林陸一郎  
 人文学部長 大沢真一郎  
 教務部長(新任) 吉村昭市  
 学生部長 坪内成晃  
 広報部長 斎藤光  
 国際交流室長 新井清一  
 情報館長 牧野圭一  
 就職部長 松浦逸郎  
 事務局長(新任) 吉村守

1998年度から着任された専任教職員は以下の4名の方。

- 玉田京子(美術学部)  
 高橋伸一(人文学部)  
 田中貴子(人文学部)  
 山田富秋(人文学部)

また次の先生方が、1997年度をもって退職された。

- 岡井 隆(人文学部)  
 笠原芳光(人文学部)  
 春日キスヨ(人文学部)  
 鶴見貞子(人文学部)

笠原先生と鶴見先生は名誉教授になられた。笠原先生は、定年のため教員としては退職されたが、引き続いて学校法人木野学園の理事長職をつとめられる。

# 退職の弁 岡井 隆

97年度で退職された岡井先生に精華の思い出を寄せていただきました。



大学という時、ぼくの抱いていたイメージは、昔の帝国大学のそれを模したものだ。もちろん、現代日本の大学にそんなものは存在しやしないことを、知識としては知っていたが、自分が若い頃から読んできた戦前の大学の影響で、このイメージは強固だった。教育は従、研究が主。ところが、今の学生達は、就職のためのモラトリアムを過ごすための遊び場のように、大学を利用している。それでも、楽しいことはいくつもあった。大学院が出来て、何人かの院生に接した時、初めて、かなり突っ込んだ専門的な話が出来るようになった。若い世代に、知的にもかなりのレベルの人たちがいて、詩や歌も作り、そのレベルもかなり高いのを知った。

ぼくは、一時、迷って他の方法(学生との対話方式)をとったが、すぐにその間違いに気付いて、あとは一貫して、講義形式をとった。学生とぼくとでは知識も経験も大きく違う。ぼくの知識を、レベルを崩すことなく、語り続けることが、詩歌の魅力を伝えるのに最もいい方法だと信じた。もちろん、学生は少数しか聴きに來なかつたが、それはそれでいいのである。聴きに來た人には、必ずよくわかるように、難解な詩歌を、全力を

つづけて、分析し、伝えようとした。話すことが、自己教育であり、自分で新しい問題を切り開くことであることは、言うまでもない。講義することは、いつだって、はりにあることだった。

大学にいた九年間に、ぼくは沢山の本を出したし、新しい文学の考え方をすることができた。これはやはり、大学で講義したり、テストの出題をしたり、学生たちと話したりすることが、測り知れぬ刺激となっていたと思うのである。<反面教師>という言葉をもじって言えば、<反面学生>というような効果もなかったとはいえないが、ぼくは、この大学の雰囲気は好きだった。山の間にあって、谷川をはさんで大学がある。こんなところにゆっくりと居住して、大学で研究や教育や思索ができたらいだらうと何度も思った。しかし、ぼくの私的な境遇は、それを許さなかつた。その点でも、いい教師でなかつたことは自分でも知っているが、これは本意ではなく自分でも残念に思っていたのである。

とはいえ、京都という場所へ九年通って、古い都が近代化していくさまを見たり、それまでほとんど知らなかつた京都のあちらこちらに探ってみたりした。京都の気候、風土がほんの少しだがわかつて來た。東京とは全く違う京都という場所の空気を、毎週一回吸うという体験は、たくさんのよいものを、ぼくの心身にもたらした。

笠原元学長をはじめ、諸先生方に感謝を申し上げ、今後も、ぼくの文学活動を見ていただけたら、とても嬉しいし、お導き下さいと申し添えて、退職の弁をしめくりたい。

# アゼンブリーアワー講演会

- 時間 14:40~16:10  
 場所 黎明館L101教室
- ◆9月24日(木)  
 金子達仁氏(スポーツライター)  
 「日本サッカーの明日」(仮)
  - ◆10月22日(木)  
 森本雅樹氏(天文学者)  
 「ひょうごは大きな博物館」
  - ◆11月19日(木)  
 八谷和彦氏(メディア・アーティスト)  
 「好きなものをつくりかた」

# 京都の伝統工芸講座

- 時間 13:00~14:30  
 場所 黎明館L101教室
- ◆9月17日(木)  
 川島春雄氏  
 (株式会社川島織物 名誉会長)  
 「京都の伝統産業における現状と展望」
  - ◆9月24日(木)  
 山口富蔵氏(末富社長)  
 「京菓子いろいろ」
  - ◆10月1日(木)  
 石原昭氏  
 (東映京都美術センター 常務取締役)  
 「映画撮影における美術について」
  - ◆10月15日(木)  
 安井清氏  
 (株式会社安井空工務店 副社長)  
 「京都の伝統的な建築について」
  - ◆10月22日(木)  
 吉岡幸雄氏(天然染料染色家)  
 「日本の伝統色と京都の風土」
  - ◆10月29日(木)  
 田畑禎彦氏  
 (日本染織作家協会 理事長)  
 「輝けるきもの美」
  - ◆11月19日(木)  
 恩地博氏  
 (株式会社GK京都 取締役社長)  
 「生活とデザイン」
  - ◆12月3日(木)  
 森口邦彦氏  
 (社団法人日本工芸会 常務理事)  
 「友禅の美~技術と造形的試行~」
  - ◆12月10日(木)  
 江里康徳氏(佛像彫刻家)  
 「佛像彫刻」

# New Summer 新人からの一言

京都精華大学に新しく加わった4名の新人に挨拶の言葉を寄せてもらった。

玉田京子 美術学部教員  
 マンガ分野専攻。本学の卒業生。専門は絵本。「基礎デザイン」「デザイン」「マンガ」などの科目を担当する。

高橋伸一 人文学部教員  
 専門分野は比較文学。「比較文学概論」「比較文化論」「人文学基礎」「人文学への視点」などの科目を担当する。

田中貴子 人文学部教員  
 専門分野は日本文学。「日本詩歌論」「日本古典文学」「人文学基礎」「人文学への視点」などの科目を担当する。

山田富秋 人文学部教員  
 専門分野は社会学。「社会調査法」「社会意識調査法」「家族社会学」「人文学基礎」などの科目を担当する。

20年前に本学を卒業し、その後非常勤としてお世話になり、ずっと大学や学生達の移り変わりを見てきました。改めて専任となり、今非常勤にはなかつた緊張感を味わっています。大学の環境と共に学生気質も少しずつ変わって来ているが、卒業生という経験を活かした授業ができればと思っています。よろしくご指導お願いいたします。

南を向けば、人間の観智を尽くした伝統文化のざわめきを感じ、北に振り返れば、人間そのものを凌駕する見たこともない自然が屹立する。このような京都精華大学という場で、人間の文化や文学を学生とともに考え、自分たちのキャンパスを耕し、そこを中心に世界へ通じていくことができることを非常にうれしく思っています。

女子大に六年ほどいましたので、精華へ来てのもっとも驚いたのは、ヴィトンとブラダの占有率が低いことでした。学生という身分を考えるとこれは嬉しい事実ですね。私はお洒落も好きですが、もっと好きなのは仏教説話。妖怪や神さんがうごめく中世の間の世界を彷徨しています。精華大は学生と教職員間の交流が盛んで、今後が楽しみです。

ここに来ていちばん新鮮に感じたことは、学生が学生らしいということです。何事にも受け身の学生が多いなかで、積極的に発言したり好奇心が旺盛の学生に出会えたことは、大きな収穫だと思います。なお、私の専門はエスノメソドロロジーという社会学の一派で、その視点から精神医療や差別問題へアプローチしています。

# 稲浦さん追悼 安藤邦洋(美術学部教員)

稲浦嘉顕先生が、病気が療養中のところ、1998年3月30日にご逝去されました。ご親交の深かった安藤先生に故人を偲ぶ文章を寄せていただきました。謹んで哀悼の意を表します。

去年「健康診断のあった日の夜すぐに精密検査を受けるようにとの連絡があった」と、稲浦さん自身から聞いたときの最悪の予感が現実のものとなった。本場に親しかつた人を亡くすという、こはこういふことなのだろうか。こういう言い方が適切なものかどうかわからない。しかし、何かが夢のようなのだ。稲浦さんの死が、夢の中の出来事であつてほしいということなのか、人の一生というものがこれほどあつてはいけないものであつてしまふというこの、これが実感なのか。通夜の夜、学長が私に安藤さんと、寂しくなるよと私に安藤さん、寂しくなるよと私に安藤さん、寂しくなるよと言ったが、今の私の心境が寂しいのかどうか、それも分からない。流溪館の階下でドアが開き大きな音がして、独特の口笛が聞こえる。数秒の後、稲浦さんが私の研究室に現れる。互いに授業がある日はほとんど一度はどちらかの研究室でいろいろな話をし、それだけでその日が終わるということも珍しくはなかつた。学生のこと、精華のその時々の問題、家族のこと、ときに少し学問的なこと。話している時間の長さは、多分稲浦さんが10分たつと、私が一分美術について話しても僕は素人だから、と前置きしながらも、ユニークで示唆的な話をしてもらつた。

思えば、私の精華での毎日は常に稲浦さんともにあつた。稲浦さん、私がいなくなつた精華大学に、私がいなくなつたことが不思議なのだ。何かをするとき、稲浦さんが私の目標であり、基準であり、支えであつた。思い出は過ぎぬが、精華に同時に専任となつて間もない頃、稲浦のテニスコートで夏はたつの雨の中で、冬は積もつた雪をかき分けてテニスをしたのも昨日のことのようだ。また、金曜日には、中原術介先生と稲浦さんと私と3人でピコリーノカレーを昼食を取るのがここ10年くらい習慣だつた。

稲浦さんは亡くなる直前「我、生涯を終えり」とフランス語で語つたという。最後の入院となつた病室から電話で私に、ずっとシリーズで買つてたSFの文庫本を途切れさせるのは残念だから、23巻を注文しておいてほしいと頼み、また4月からの授業のために運搬のしやすい新車を買つたことを楽しそうに話すと、最後の最後まで、生きる望みを捨てなかつた稲浦さんが最後に決めるべき所を決めたのだろうか。稲浦さんをあえて一言で評するならば、ニヒリス。しかし、また本当の優しさを備へたヒューマニストでもあつた。普通は両立し難い資質が希有な結びつきをしていた人、それが稲浦さんだつた。

# 1997年度決算及び1998年度予算報告

## 1997(平成9)年度資金収支計算書

1997(平成9)年4月1日から  
1998(平成10)年3月31日まで (単位:千円)

収入の部		金額
学生納付金収入		4,196,775
手数料料収入		244,409
寄附補助金収入		65,361
補償金収入		311,512
資産運用収入		101,814
資産売却収入		598,588
事業収入		6,473
雑収入		93,750
借入金収入		1,170,000
前受金収入		1,119,166
その他の収入		496,267
資金収支調整勘定		△1,232,368
前年度繰越支払金		3,332,839
収入の部合計		10,504,586
支出の部		金額
人件費支出		1,996,381
教育研究経費支出		779,335
管理経費支出		433,179
借入金等利息支出		168,115
借入金等返済支出		1,129,980
施設関係支出		2,107,622
設備関係支出		655,682
資産運用支出		1,401,426
その他の支出		110,679
資金収支調整勘定		△46,095
次年度繰越支払金		1,786,382
支出の部合計		10,504,586

## 1997(平成9)年度消費収支計算書

1997(平成9)年4月1日から  
1998(平成10)年3月31日まで (単位:千円)

消費収入の部		金額
学生納付金収入		4,196,775
手数料料収入		244,409
寄附補助金収入		109,140
補償金収入		311,512
資産運用収入		101,814
資産売却収入		0
事業収入		6,473
雑収入		93,750
借入金収入		5,063,873
基本金租入額合計		△2,509,558
消費収入の部合計		2,554,315
消費支出の部		金額
人件費		2,025,825
教育研究経費		1,217,767
管理経費		486,230
借入金等利息		168,115
借入金等返済		8,595
徴収不能額		5,199
消費支出の部合計		3,911,731
当年度消費支出超過額		1,357,416
前年度繰越消費収入超過額		324,693
翌年度繰越消費支出超過額		1,032,723

## 1998(平成10)年度資金収支予算書

1998(平成10)年4月1日から  
1999(平成11)年3月31日まで (単位:千円)

収入の部		金額
学生納付金収入		4,188,000
手数料料収入		211,500
寄附補助金収入		55,000
補償金収入		267,000
資産運用収入		94,000
資産売却収入		0
事業収入		3,000
雑収入		12,000
借入金収入		200,000
前受金収入		773,000
その他の収入		205,286
資金収支調整勘定		△1,169,166
前年度繰越支払金		1,786,382
収入の部合計		6,626,002
支出の部		金額
人件費支出		2,001,500
教育研究経費支出		820,084
管理経費支出		415,453
借入金等利息支出		145,000
借入金等返済支出		678,160
施設関係支出		50,000
設備関係支出		102,064
資産運用支出		0
その他の支出		110,260
予備費		50,000
資金収支調整勘定		△38,367
次年度繰越支払金		2,291,848
支出の部合計		6,626,002

### (概要)

97年度の帰属収入は、約50億円でした。このうち学生納付金は83%を占めています。寄付金は、1億円を超える額を頂くことができました。

この中から、「情報館」「黎明館」とその付帯工事の建設費を中心として施設関係支出他約25億円を基本金に組み込まれました。

人件費その他の経常経費は約39億円となり、97年度末の累積消費収支差額は10億円を超える支出超過となりました。

しかし、97年度で施設整備計画は一段落し、98年度予算では大きな施設整備計画はありません。累積消費支出超過の解消に向かって98年度は収入超過となる見通しです。さらなる教学の充実と財政基盤の安定に向けて新たな事業計画の具体化が次なる課題となっています。

## 貸借対照表

1998(平成10)年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	18,098,135	15,405,755	2,692,380	固定負債	4,124,887	3,782,303	342,584
有形固定資産	15,484,168	13,178,237	2,305,931	長期借入金	3,559,820	3,246,680	313,140
土地	3,895,340	3,406,390	488,941	退職給与引当金	565,067	535,623	29,444
建物	8,720,249	6,130,790	2,589,459	流動負債	1,750,579	1,996,087	△245,508
構築物	937,277	690,257	247,020	短期借入金	478,160	751,280	△273,120
教育研究用機器備品	1,206,325	709,809	496,516	未払金	60,260	39,377	20,883
その他の機器備品	72,436	74,052	△1,616	前受金	1,119,166	1,087,128	32,038
図書	646,759	606,461	40,298	預り金	92,993	118,302	△25,309
車両	5,782	714	5,068	負債の部合計	5,875,466	5,778,390	97,076
建設仮勘定	0	1,559,755	△1,559,755	基本金の部			
その他の固定資産	2,613,967	2,227,518	386,449	科目	本年度末	前年度末	増減
電話加入権	3,371	2,398	973	第1号基本金	14,884,447	12,376,889	2,507,558
有価証券	1,966,603	1,589,564	377,039	第2号基本金	0	0	0
長期貸付金	324,791	317,534	7,257	第3号基本金	150,000	150,000	0
退職給与引当特定資産	169,202	168,022	1,180	第4号基本金	238,000	236,000	2,000
第3号基本金引当資産	150,000	150,000	0	基本金の部合計	15,272,447	12,762,889	2,509,558
流動資産	2,017,055	3,460,218	△1,443,163	消費収支差額の部			
現金預金	1,786,382	3,332,839	△1,546,457	科目	本年度末	前年度末	増減
未収入金	147,892	63,055	84,837	翌年度繰越消費収支差額	△1,032,723	324,694	△1,357,417
短期貸付金	668	718	△50	消費収支差額の部合計	△1,032,723	324,694	△1,357,417
有価証券	67,317	41,287	26,030	科目	本年度末	前年度末	増減
保立証	35	35	0	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	20,115,190	18,865,973	1,249,217
立替金	10,212	11,085	△873				
前払金	367	3,835	△3,468				
仮払金	4,182	7,364	△3,182				
資産の部合計	20,115,190	18,865,973	1,249,217				

## 京都精華大学1999年度入試日程

### 人文学部

### 美術学部

試験種別	出願期間	試験日	試験会場	発表	手続締切
自由選抜	10月1日(木)	1998年 10月31日(土)	本学	11月7日(土)	11月20日(金)
	10月12日(月)				
公募推薦	11月2日(月)	1998年 11月21日(土)	本学	11月30日(月)	12月18日(金)
	11月13日(金)				
一般I期	1月13日(水)	1999年 2月11日(木)	本学 地方	2月22日(月)	3月8日(月)
	1月28日(木)				
一般II期	2月15日(月) 3月1日(月)	1999年 3月8日(月)	本学	3月15日(月)	3月23日(火)

試験種別	出願期間	試験日	試験会場	発表	手続締切
公募推薦	11月2日(月)	11月24日(火)	本学	12月2日(水)	12月18日(金)
	11月16日(月)				
一般I期	1月11日(月)	2月3日(水)	本学	2月16日(火)	2月26日(金)
	1月26日(火)				
一般II期	2月10日(水)	3月4日(木)	本学	3月15日(月)	3月23日(火)
	2月25日(木)				

※他に留学生、帰国生徒、社会人の特別枠入試があります。

願書請求は入試広報課まで フリーダイヤル 0120-075-017

## 木野通信第29号

1998年7月15日発行

## 京都精華大学

京都精華大学 情報館 文化情報課 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137 TEL 075-702-5343